

大学入試における英語外部試験の活用と 4技能型問題集の発行

数研出版 英語編集部

0. はじめに

前号では、大学入試における英語外部試験の活用とその対策についてまとめました。今回はその続きとして、文部科学省から発表された方針も踏まえ、4技能型問題集の発行についてご紹介します。

1. 高大接続改革について

平成29年5月16日に「高大接続改革の進捗状況について」、平成29年7月13日に「高大接続改革の実施方針等の策定について」、それぞれ文部科学省から発表がありました。以下に概要をまとめます。(全教科共通(センター試験後継テスト))

- ・「大学入学共通テスト」に名称変更。
- ・試験は1月中旬に2日間で実施の予定。
- ・平成29年11月に高校生5万人規模、平成30年12月頃に10万人規模のプレテストを実施予定。
- ・平成32年度に「大学入学共通テスト」の第1回を実施。最初に受験するのは現時点(平成29年時点)での中学3年生。

(英語)

- ・平成32年度から共通テストと認定試験*1のいずれか、または双方を大学判断で選択利用(共通テストは平成35年度まで継続実施)。
- ・認定試験活用の場合、
 - ①「読む・聞く・書く・話す」の4技能を評価。
 - ②高校3年生の4～12月に2回受検可能で、よいほうの結果を採用。
 - ③成績は各試験結果及びCEFR*2に基づく評価を要請のあった大学に提供。利用法は大学ごとに判断。
 となる。

*1 学習指導要領に対応し、実施条件や問題・採点の質などを満たす、と大学入試センターによって認められた民間の資格・検定試験。

*2 Common European Framework of Reference for

Languages; ヨーロッパ言語共通参照枠言語能力を評価する国際指標で、学習者の言語運用能力を客観的に評価するために使われる。

2. どうなる入試? どうする対策?

上述の文部科学省からの発表において注目すべき点は、「認定試験を活用する」ことです。どの外部試験が認定試験になるのか、あるいは既存の外部試験のうちいくつが認定試験とみなされるのか、という点には高い関心が寄せられそうです。一方で、試験が4技能型になることはほぼ間違いないと思われます。もちろん、外部試験を受けなければ大学に入れないということではないですが、これだけ外部試験を利用した入試制度が一般的になってくると、無視はできなくなってくるのではないのでしょうか。

すでに授業や長期休暇中の講座などで、外部試験の対策を行っている学校もあるかと思います。しかし現状としては、学校採用専用書籍にはなかなか適当な教材がないと感じている先生もいらっしゃるのではないのでしょうか。

そのような状況を受けて、この度数研出版では新たな試みとして外部試験の対策につながるような4技能型の問題集を発行することになりました。

3. 4技能型問題集の発行

今回数研出版から発行するのは、『英語4技能型テストへのアプローチ』という、外部試験の対策につながるような4技能型の問題集です。全7回のテスト形式で、1回のテストに4技能を使う問題を盛り込みました。本書は特定の外部試験の対策を行うための問題集ではなく、外部試験とはどのようなものか、どのような問題が出題されているのか、を知る段階でご使用いただく教材です。「試験対策」を突き詰めて考えると、①実際の問題形式・傾向に慣れ、②与えられた時間内に問題を解く、という2点

に絞られると思います。今回の教材は、①問題形式・傾向に慣れるという点に重きを置いています。もう少し具体的に用途や特徴をご紹介します。

本書の最大の特徴は、複数の外部試験の問題形式・傾向を1冊の中に凝縮しているという点です。個別の試験の対策問題集は多々発行されていますが、1冊で複数の試験に対応できる問題集というのは、恐らくこれが初めてではないでしょうか。実際の外部試験は、その目的・対象もさまざまですので、1冊で複数の外部試験をそのままのレベルで扱うのは非常に難しいものがあります。本書では、分量や時間、語彙レベルや扱うトピックなどを調整し、全体のレベルの均一化を図りました。もちろん、それぞれの外部試験の特徴を消さないことも考慮しました。各回の問題はすべてオリジナルで作成しています。外部試験でどのような問題形式が出題されているのかを知るには、最適の教材です。テストは回を追うごとに緩やかにレベルの傾斜がつくように配列しています。また、特定の外部試験をターゲットにした書籍ではないため、汎用性も高くなっています。

4. Speaking テストの実施と評価について

Speaking テストをどう扱うか、またどう評価するかについては、先生方が最も関心を持たれることかと思えます。今回の問題集では、限られた時間の中で Speaking テストを実施・評価することを考慮し、生徒同士のペアで実施する方法を考えてみました。ペアの1人が回答者、もう1人が面接官役となり、与えられた素材をもとにロールプレイする形です。もちろん、1人ずつ面接形式で実施することも可能です。

評価については、解答編にループリック評価表を入れ、多角的に評価できるようにしました。本来は到達度を測るための評価基準ですが、今回の問題集はテスト形式ですので、点数化できるような形にしています。生徒が評価する際に判断に迷わないようできる限り明確な基準を設けました。

5. 別冊ノートについて

もう1つの特徴が、別冊ノートの存在です。各技能においてよく出題される問題形式について、例題を用いて解説しています。その問題形式におけるポイントや必要とされる能力などにも触れており、い

わば外部試験のガイドブックのような役割を果たします。各技能で取り上げる問題形式は、本冊のテストに少なくとも1回は登場しますので、復習用あるいは予習用として使用することも可能です。別冊ノート単体でも使用できるように、本冊の問題と別冊ノートの例題は、異なったものになっています。

また、巻末には各種外部試験の概要を知るのに役立つ情報をまとめたページを設けています。

6. 使い方の例

学校・先生によってご使用方法は異なると思いますが、ご参考までに一例を挙げておきます(50分の授業で使用した場合)。

〈授業〉テスト1回分を35分～40分程度で実施。



〈授業〉10分～15分程度で答え合わせ。



〈自宅〉解答編の解説を読んで復習。

*別冊ノートはいつでも使用可能です。

7. おわりに

4技能を1冊で扱った問題集を発行するのは、数研出版としては初めての試みです。類書がないため、企画当初はどのようなものになるのか想像ができませんでした。しかし、学校の先生方に意見を伺いながら少しずつ形にしていきました。Speaking テストの実施方法など検討を重ね、「これなら授業でもできそう」と先生方にご納得いただけるように編集しました。ぜひ一度お試しください。ご意見をお聞かせいただければと思います。

(参考資料)

文部科学省「高大接続改革の進捗状況について」

「高大接続改革の実施方針等の策定について」

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/05/1385793.htm

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/07/1388131.htm

Cambridge English 「言語能力を評価する国際標準規格に関する説明」

<http://www.cambridgeenglish.org/jp/exams/cefr/>